

11. 図書および図書・電子媒体等

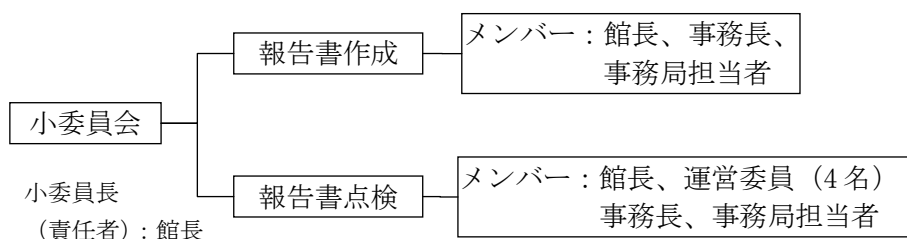
大学設置基準第 38 条第 1 項、および大学基準協会が定める大学基準の「図書・電子媒体等」、学士課程基準の「図書館等」、修士・博士課程基準の「図書館等」の趣旨に沿い、図書館資料の質的・量的整備、および利用環境の整備を促進し、文部科学省発行の「大学図書館実態調査」に示される私立大学 C 分類（2～4 学部）所属図書館の規模・整備・サービス状況の平均水準を保つことを目標としている。

したがって本学図書館の現状の点検評価を行うため、文部科学省発行の「大学図書館実態調査」結果と比較する。この調査結果の最新版は平成 20 年 3 月に発刊されているが、その内容の調査対象となっているのは、平成 19 年 5 月 1 日付けで集計された全国大学図書館の平成 17 年度末までのデータである。そこで、平成 17 年度末における本学図書館のデータと、本学と同じランクとなる 2～4 学部を有する私立大学 C 分類（245 校）の 1 校あたり平均値を比較検討することで、点検・評価を行う。「大学図書館実態調査」にデータが無い項目は、平成 20 年度 5 月 1 日時点集計データを用いて、本学内の特色等を点検・評価する。

今回の自己点検を進めるに当たって図 11-1 に示す平成 20 年度の福岡工業大学自己点検・評価活動書の図書館部分の作成・点検を目的とする自己点検小委員会を設置した。構成は館長を責任者とし、作成を担当する部署と報告書の点検を担当する部署に大きく分かれる。

点検を担当するメンバーとしては図書館長、事務長、事務局担当者及び図書館運営委員会メンバーから各学部代表として 4 名（工学部、情報工学部、社会環境学部、短期大学部）を選出した。

図 11-1 2008 年度福岡工業大学附属図書館自己点検委員会



(一) 図書、図書館の整備

(1) 図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性

(現状)

(イ) 所蔵数と蔵書構成

平成 20 年 5 月 1 日における本学附属図書館の所蔵資料数は、図書約 26.7 万冊（内、開架図書は約 14 万冊）、定期刊行物は約 1,790 種類（内、内国誌 1,011 種、外国誌 778 種）、視聴覚資料約 2645 点、電子ジャーナル 768 種である。

学術分野別の所蔵分類割合を表 11-1 に示す。図書では、多いほうから①工学 31.4%、②自然科学 24.8%、③総記 13.9%、④社会科学 14.0%の順となっており、雑誌は、①工学 43.8%、②総記 20.9%、③自然科学 20.3%、④社会科学 10.2%の順となっている。この蔵書構成は、本学の 3 学部のうち工学部・情報工学部の歴史が長いこと、及び社会環境学部の学生比率が約 20%であることによる。視聴覚資料では大きな割合を占めるのが芸術であり、工学・自然科学と続く。これは、学生の要望の高い音楽・映画資料等を積極的に受け入れている

ことによる。

表 11-1 所蔵資料数の分類別割合（平成 20 年 5 月 1 日現在）

分類	図書	雑誌	視聴覚資料
総記	13.9%	20.9%	1.8%
哲学	2.5%	0.8%	0.2%
歴史	2.7%	0.4%	7.5%
社会科学	14.0%	10.2%	4.5%
自然科学	24.8%	20.3%	9.5%
工学	31.4%	43.8%	11.0%
産業	1.2%	0.3%	0.7%
芸術	2.3%	1.2%	53.7%
言語	3.4%	1.3%	5.5%
文学	3.8%	0.8%	5.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%

(ロ) 年間受入数と図書館資料予算

図書館における過去 3 年間の図書・雑誌の受入数は、**巻末資料 17**（「大学基礎データ」**表 41**）に示すように、平成 17 年度は 5,387 冊、平成 18 年度は 5,063 冊、平成 19 年度は 4,768 冊であり、漸減傾向ではあるが、5,000 冊程度の規模で毎年度図書が受け入れられている。

また**表 11-2**に示すように過去 5 年間に拡大してみても、その漸減傾向に変化はない。一方、学術雑誌は、5 年間を通じてタイトル数が、和雑誌については漸減傾向、洋雑誌については大きく減少している。これは特に洋雑誌の契約料の高騰の影響のため、対策として利用数の少ないタイトルから毎年度削減してきた結果である。今後の対策として購買方法の再検討なども必要となってくると考えている。

表 11-2 過去 5 年間の図書館資料の受入状況（単位 図書：冊、雑誌：種（タイトル））

	実質年度 (調査日付)	平成 15 年度 (H16. 5. 1)	平成 16 年度 (H17. 5. 1)	平成 17 年度 (H18. 5. 1)	平成 18 年度 (H19. 5. 1)	平成 19 年度 (H20. 5. 1)
図書	和書	4,715	4,547	4,497	4,264	4,540
	洋書	1,184	1,802	890	799	228
	計	5,899	6,349	5,387	5,063	4,768
学術雑誌	和雑誌	466	463	485	494	372
	洋雑誌	335	161	166	144	119
	計	801	624	651	638	491
合計		6,700	6,973	6,038	5,701	5,259

過去 5 年間の図書館資料予算を**表 11-3**に示す。図書資料予算は約 7,000 万円から約 6,000 万円迄、減少傾向にある。これは図書館予算が在籍学生数の推移を反映する仕組みになっているためである。出版物費の予算全体に占める割合は約 90%から約 85%と減少傾向にある。これは、洋雑誌の価格高騰の影響の中でも、洋雑誌タイトルの受け入れ数を年々削減しつつ、図書の購入費用を確保している結果である。

表 11-3 過去 5 年間の図書館資料予算と実績 (単位：千円)

	平成 15 年度		平成 16 年度		平成 17 年度		平成 18 年度		平成 19 年度	
	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績
図書費	6,700	4,823	8,208	7,256	10,420	8,699	10,340	9,308	9,540	8,937
出版物費	60,856	61,444	59,121	58,888	55,170	54,184	54,737	53,626	50,501	49,765
計	67,556	66,267	67,329	66,144	65,590	62,883	65,077	62,934	60,041	58,702

(ハ) 資料整備の方法

図書資料の予算配分と資料整備の方法は図書館運営委員会で決定される。

最も大きな予算区分を占める洋雑誌は、利用度の毎月集計結果より、年 1 回利用頻度の小さいタイトルから削減していき、新たなタイトルの購入は基本的に据え置かれている。

和雑誌についても予算の関係上新たなタイトルの追加は困難であり、漸減の状態が続いている。

学生用図書は、毎年度学科ごとに図書館運営委員を通して教員全体に選書を依頼しており、その選書結果を図書館で集計・調整して発注・購入している。学生個人からのリクエストによる図書や視聴覚資料も、予算の範囲内でできる限り受け入れることにしている。また、講義やゼミのために使用する教員指定の図書を毎年度購入している。

教員の研究用図書購入に対しては、図書館の図書資料費から毎年度数万円程度の枠で使用を認めている。それ以上の図書購入については、個人研究費（実験実習費）や研究所予算などの費目から充当することができるが、購入本はすべて図書館の管理台帳に記載された後、教員の研究室に保管されることになっている。この個人研究費（実験実習費）で購入される教員保管の図書は現在約 1.9 万冊になっている。

その他、図書館の基本資料や 2 次資料などは、運営委員会の下に設けられた資料選定小委員会のもとで選定される。

(点検・評価)

平成 17 年度末時点の資料所蔵数と平成 17 年度の入数を、資料別に本学と私立大学 C 平均で比較する。

	本学 (A)	私立大学 C 平均 (B)	(A/B) × 100 (%)
<和書> 所蔵数	199,505 冊	189,174 冊	105.5%
年間受入数	4,497 冊	6,249 冊	72.0%
<洋書> 所蔵数	55,757 冊	65,309 冊	91.5%
年間受入数	890 冊	1,211 冊	73.5%
<和雑誌> 所蔵数	1,003 種	2,101 種	47.7%
年間受入数	469 種	997 種	47.0%
<洋雑誌> 所蔵数	777 種	819 種	94.9%
年間受入数	305 種	268 種	113.8%
<電子ジャーナル>			
所蔵数	372 種	938 種	39.7%

和書、洋書と洋雑誌の所蔵数が、ほぼ平均水準に達しているが、和雑誌・電子ジャーナルの所蔵数は平均値を大きく下回っている。特に電子ジャーナルは低い値であるが、前回

調査（平成 16 年度調査による平成 14 年度データで 28.3%）時に比べると、10%以上増加しており、改善の傾向にあると考えられる。一方、受入数は洋雑誌のみ平均水準に達しているが、和書・洋書・和雑誌は少ない。特に、和雑誌が少ない値となっている。

量的整備の点からみれば、不足率の高い資料の充足が望まれるので、①電子ジャーナル・和雑誌の受け入れを増し、所蔵数を高めることが必要である。また、②和書は受入数の低減が続けば平均水準の所蔵数を維持できなくなる恐れがあるので、受入数の増加が必要である。

さまざまな整備のために図書館資料全予算の増加が期待されるが、現状の予算が他大学に比し、どういうレベルなのかを客観的に知っておくことも必要である。そこで、平成 17 年度における図書館資料費と図書館総経費が大学総経費に占める割合を、「大学図書館実態調査」に基づいて本学と私立大学 C 平均で比較すると、次のようになる。

	図書館資料費 (A)	図書館総経費 (D)	大学総経費 (E)	A/E	D/E
本学	67,027 千円	141,557 千円	4,852,081 千円	0.0138	0.0292
私立大学 C 平均	62,832 千円	145,241 千円	4,955,268 千円	0.0126	0.0293

大学総経費 (E) に占める図書館資料費 (A)、図書館総経費 (D) の割合共に、私立大学 C 平均とほぼ同等であると考えてよい数値である。但し、私立大学 C 平均に対して突出した予算枠でないことも事実であり、同規模同種の大学の中で、あるべき図書館を維持するための最低限必要な割合であるとも言える。

したがって、重要な整備改善のため、どうしても新たな予算が必要な場合、その必要性を大学全体で共有し費用を捻出するというを今後目指していく必要がある。

(改善方策)

点検・評価で明らかになった検討課題（①電子ジャーナル・和雑誌の所蔵数増大、②和書・洋書・和雑誌の受入数増大に対して、次のような方策が考えられる。

(イ) 電子ジャーナルの所蔵数増大について

本図書館は平成 14 年頃までは、主として洋雑誌の冊子体購入契約に伴う電子ジャーナル利用可能のものだけを対象としていた。しかしその後、和雑誌の電子版が無料で閲覧できる資料が増加しており、本学にとって有用な資料を選択して、図書館ホームページにリンクして利用可能にするようにした。また洋雑誌費の高騰によりこれ以上新たな冊子体の購入が事実上困難であるため、IEEE の電子ジャーナル一括版の契約を実施した。その結果、平成 14 年末で 113 種類であったものが平成 17 年末では 372 種の電子ジャーナルが利用可能になった。それでも私立大学 C 平均 938 種の約 40%に過ぎず、平成 16 年度の自己点検時の数値と大きく変わっていない。他の私立大学図書館も当大学図書館と同等或いはそれ以上のペースで電子ジャーナル化に動きだしていると思われる。なお、当大学図書館も平成 18 年度以降も引き続き、電子ジャーナルタイトル数の増加に努めており、電子ジャーナル閲覧システム INFORTRACK の試行的導入等により平成 20 年度開始時点では総計 768 種類となっている。

(ロ) 和雑誌の所蔵数・受け入れ数増大について

和雑誌の受け入れ方法において、購入と寄贈の割合を本学と私立大学 C 平均で比べてみると、私立大学 C 平均では、購入 353 種 (28%) : 寄贈 640 種 (51%) であるのに対し、本学では、購入 360 種 (46%) : 寄贈 109 種 (12%) となっており、購入に関しては平均値に達している。すなわち和雑誌の寄贈が少ない点が目立つ。これは従来、本学に人文社会科学系

が無かったことも一因であると考えられ、今後、人文社会科学系資料を重点的に集められると効果的である。ただし、本学図書館に受け入れ可能な資料の選別方法等の検討が必要であろう。

(ハ) 和書の受入数増大について

平成 15 年度図書館委員会で、本学は学生の基礎教養となる和書が不足しているとの指摘があり、公共図書館で備えているような文庫・新書シリーズを中心に読みやすい本を積極的に収集して、学生に供することにし、現在もこの制度は継続中である。平成 20 年度においても基本充実図書として 20 万円の予算枠を作り、本年発行の文庫・新書シリーズの相当部分を網羅する方策を講じている。これらの和書の内容としては人文社会科学系が多いと思われるが、今後も意識的にこの分野の和書受け入れを図っていくことにする。

また平成 18 年度から就職・資格取得支援を目的として就職試験対策や資格取得関係資料の予算枠を作り平成 20 年度まで継続実施している。

(ニ) 洋書の所蔵数増大について

平成 17 年度以降、一定額の洋書購入費を確保して洋書の新規受け入れに努めているが、さらなる洋書数の増大については、予算面、運用面を含めて検討していく必要がある。

(ホ) 該当資料の購入予算の確保について

表 11-3 に示すように、毎年度図書館資料予算が減少しつつある現況では、この予算内で多くの方策を一度に成し遂げることは相当困難である。該当資料を購入収集するための予算を確保する手立てとして、毎年度の図書館資料予算の中で、予算配分割合の見直しをはかるとともに、利用度数調査に基づく資料整理を行い、必要性の高い資料から収集を行っている。

また本学では図書：出版物費の予算割合が平成 15 年度迄は約 1：9 になっていた。その中でも洋雑誌が、全図書館資料費の 80% 近くを占めている。これは洋雑誌の価格高騰が大きな要因であり図書館としては毎年度洋雑誌の利用度数調査に基づく誌数削減に取り組んでおり、削減できた分の予算で図書等の購入増加に努めている。

具体的には、平成 15 年度に 20 タイトル (534 万円)、平成 16 年度に 19 タイトル (497 万円)、平成 17 年度に 34 タイトル (896 万円)、平成 18 年度に 21 タイトル (480 万円)、平成 19 年度に 21 タイトル (790 万円) の削減を行った。その結果、平成 15 年度迄は図書：出版物費の予算割合が 0.7：9.3 だったのが平成 19 年度には約 1.6：8.4 になった。

この方法を今後も続け、洋雑誌削減分で電子ジャーナル・和雑誌・洋書・和書の整備をはかる方向を模索する。将来的には、図書：出版物費の予算割合は工業系同規模大学の 3：7 ぐらいが適当であろうと考えている。

(2) 図書館施設の規模、開館時間、閲覧室の座席数、情報検索設備や視聴覚機器の配備等、整備状況とその適切性とその利用環境

(現状)

(イ) 図書館の規模

施設の用途別面積及び視聴覚機器の現況を表 11-4 に示す。図書館は鉄筋コンクリート造り 9 階建の本部棟 3、4、5 階部分を使用している。3 階が閲覧室・自習室・閉架書庫・事務室からなり、4 階が和図書の開架書庫兼学生閲覧室、5 階が洋書と洋雑誌の開架書庫兼研究用閲覧室である。全体の収容可能冊数は約 34 万冊であり、現在書架利用割合は 85% である。

表 11-4 施設の規模及び視聴覚機器（平成 20 年 5 月現在）

(A) 施設の用途別面積 (単位：㎡)

閲覧室	書庫	自習室	事務室	その他	計
2, 227	477	206	395	840	4, 145

(B) 視聴覚機器 (単位：台)

マイクロ リーダー	テープ レコーダー	ビデオ レコーダー	CD・LD・DVD プレイヤー	その他	計
1	8	25	21	1	56

表 11-4 に示す視聴覚機器のうち、DVD プレイヤー 25 台の内 12 台は過去 5 年間で増設したものである。視聴覚機器以外の機器・備品類を次に示す。

機器	蔵書目録検索システム (OPAC) 専用端末	5 台
	オープン端末 (学内 LAN 接続、CD-ROM 検索 (stand alone) データベース検索端末兼用)	5 台 (平成 12 年度導入)
複写機	学生用複写機	3 台
	業務用複写機	1 台
業務用	図書館システム用サーバ	2 台
	図書館システム用端末	10 台
	事務用端末	10 台
	図書館システム (LVZ)	1 式 (現 LVZ は平成 14 年 10 月より稼動)
	車椅子利用者用の入退館ゲート	1 式 (昭和 60 年度導入、平成 9 年度更新)
	ブックディテクションシステム	1 式 (平成 8 年度導入)

(ロ) 開館時間 (利用者数)

巻末資料 16 (「大学基礎データ」表 42) に示すように開館時間については、閲覧室が平日 9:00~20:00、土曜日 9:00~17:00、自習室が平日・土曜日 9:00~20:00 となっており長期休暇期間中も特定の休館日を除いて、月~土曜日の開館時間通りとなっている。

年間利用者数については、学外利用者を入れて平成 17 年度は約 55,000 人、平成 18 年度約 47,000 人、平成 19 年度 40,000 人と減少傾向が続いている (表 11-5)。

(ハ) 学生閲覧室の座席数

巻末資料 17 (「大学基礎データ」表 43) に示すように、図書館内学生閲覧室の座席数は 451 席 (閲覧室席 339+館内自習室席 112 席) である。平成 20 年度の学生収容定員 3,840 人 (学部学生 3,380 人、大学院学生 140 人、短期大学部学生 320 人) に対する座席数の割合は 11.7% である。ただし、隣接棟の同フロアに図書館管轄の館外自習室 144 席を設けており、これも含めた座席数合計は 595 席になる。定期試験期間中に学生の利用が多くなる場合でも、図書館の座席が不足する状況には至っていない。本学の場合、学生用の情報コンセント付きの自習室兼休憩室が各学科や情報処理センターなど各所に用意されており、試験勉強や予復習のための学習机は十分すぎるほど用意されている背景がある。

(二) 情報検索設備や視聴覚機器

本学の情報処理センターによる全学ネットワーク・システム（学内PBX網）が平成2年に整備された後、図書館も専用ホームページを介して学内LANおよびインターネット利用の学術情報提供サービスを実施している。とくに本図書館の蔵書検索（OPAC）は、図書館内の専用端末を使わなくても、学内外どこからでも24時間利用できるシステムになっている。

(点検・評価)

(イ) 図書館の規模

平成17年度の施設規模・視聴覚機器保有数を本学と私立大学C平均で比較する。

	施設総面積	閲覧スペース	視聴覚機器保有数
<本学>	4,145 m ²	2,227 m ²	56点
<私立大学C平均>	3,734 m ²	1,505 m ²	43点

本学は私立大学C平均と比べて同等以上の施設面積、閲覧スペースと視聴覚機器を保有しており、この点で適切だといえよう。施設床面積が同じでも、本学の場合閲覧スペースに半分もの広さを割り振っており、利用者の使用空間を優先させたため、その分管理スペースの閉架書庫が狭くなっている。

平成17年度の館内閲覧座席数は、本学の場合閲覧室と自習室を合わせて467席、私立大学C平均の場合389席であるので、平均以上の水準にあると思われる。図書館床面積の半分もの広さを閲覧スペースに割り振っているのに座席数が少ない理由は、良質で幅広の座席を提供して、ゆったりとした学習空間で利用できるように目指したからである。これを狭い簡易座席に変えて数を増すことは可能であろうが、入館者が年々減る一方という問題があるため、図書館の現在の快適さはできる限り維持したいと考える。

(ロ) 開館時間

大学図書館で平日夜20:00を超えて開けているところは少数であり、夜間開講が無い本学としては、現在のところ問題はなく、妥当と考えられる。

過去5年間の入館者数及び貸出冊数を表11-5に示す。入館者数も貸出冊数も年々減少しつつあり、平成19年度は平成15年度に比べ、入館者数は約56%、貸出冊数は約81%になってしまっている。

この利用減少は、図書館側のサービスや利用上の配慮が不足している面が要因としてあるかもしれないが、それ以上に、利用者がサービスを享受する以前の問題として、図書館へ来訪する機会や動機が減ったことが要因ではないかと思われる節がある。その理由として、次の事項が考えられる。

- (A) 学生の読書離れと、インターネット情報での代替知識取得の傾向が広がったこと。
- (B) 一人で静かに学習するよりも、数人のグループで話しあいながら気楽に学習するスタイルが学生に好まれるようになったこと。学内の食堂のテーブルや飲食物持ち込みの自由利用テーブルに学生が集まって勉強する姿が多く見られる。
- (C) 学内の情報端末整備によって図書館に来なくても学内外のどこからでも学術情報の取得が可能になったこと。
- (D) ここ数年間にわたって行われた本学の講義棟群の新設や、学部学科配置換えにより、講義棟から離れた端部に図書館が位置する形になったため、学生が図書館まで足を伸ばす機会が減少したこと。

いずれの理由も、学生にとって図書館の利用価値が薄れ、音楽・映画などの視聴覚機器利用以外はあまりなじめない場所になりつつあることを意味する。さらに、多くの教員にとっても図書館は学術情報の総合保管倉庫にすぎない存在になり、通常は研究室内の蔵書で教育研究は足りていて、必要な文献はネットワーク経由で取得可能であれば十分という意識になりつつあるのではないかと思われる。

表 11-5 過去 5 年間の入館者数及び貸出冊数

		平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
入館者数		70,282 人	60,163 人	54,581 人	47,337 人	39,264 人
貸出冊数 館外	学生	12,650 冊	12,532 冊	12,095 冊	11,409 冊	9,527 冊
	教職員	1,204 冊	1,398 冊	1,688 冊	1,551 冊	1,167 冊
	その他	938 冊	736 冊	634 冊	1,102 冊	1,272 冊
	計	14,792 冊	14,666 冊	14,417 冊	14,062 冊	11,966 冊

(ハ) 学生閲覧室の座席数

現状座席数は、大学基準を超えており大学内の他の自習スペースも考慮すると緊急に改善する必要はないと認識している。むしろ従来よりも指向している良質で幅広の座席を提供して、ゆったりとした学習空間で利用できるようにすることをこれからも目指すべきであろうと考えている。すなわち入館者が年々減る一方という問題を考慮すると、むしろ図書館内での快適さをはできる限り維持したいと考える。

また図書館が管理しているオープン形式の自習室について平成 19 年度から 23 時迄利用可能としており、この点も考慮すると十分な学生サービスが行えていると考える。

(ニ) 情報検索設備や視聴覚機器

図書館ネットワークは、専用ワークステーション 1 機、専用パソコン 1 機と館内のネットワーク端末 20 台からなる。端末は業務用 10 台、利用者用 10 台で私立大学 C 平均 (10 台、17 台) より少ないが、学内 LAN およびインターネットで学内外から図書館ホームページに接続できるので、ネットワークシステムの上で利用上支障をきたすような問題はなく、適切に運用されている。

(改善方策)

(イ) 図書館の規模

今後、グループ学習室増設や、蔵書数の拡大、とくに文系図書・雑誌の増加にあたり、書架スペースの狭隘が問題となる可能性はある。その場合に、図書館全体の床面積の拡張を検討する時期が来ると予想される。書棚の整理等で館内スペースを確保する努力は続けるが、一方で図書館管轄の館外スペースを有効利用し、閲覧可能な座席を増やすことなどの方策を考えることにする。本学では図書館以外の所でも数多くの自習場所が利用できるようになっており、そのような学生の利用動向に対応するほうが現実的と思われる。

(ロ) 開館時間

図書館の利用者減に対する対応として、(A) 教員から学生への図書館利用の働きかけ、(B) 話題書など一般書の館内陳列と貸出促進、(C) 図書館自体の広報活動、(D) 図書館利用環境整備等の方法で現在進めている。

- (A) 教員からの図書館利用の働きかけでは、指定図書制度を使うなど、教員の学生に対する図書館利用学習指導を、図書館運営委員会を通じて各学科へ依頼している。ただし、あまり効果は上がっていない。
- (B) 話題書など一般書の館内陳列と貸出推進では、ベストセラーなどの話題書、芥川・直木賞受賞図書、新聞等書評本、新潮文庫、岩波新書、岩波文庫名作 100 冊シリーズ、NHK ブックスなど読みやすい一般図書を陳列し、利用を呼びかけている。利用者の内訳は文系学部学生だけではなく、他学部さらに学外の一般利用者（一般開放を行っている）の貸出も多くなっている。特に書評図書は、平成 15 年度に予算を確保して以来、新聞 4 紙の 1 年間の書評から選択したもので、種々の分野のユニークな図書が集められている。したがって平成 16 年度以降も引き続き図書館運営委員の月輪番による選書を実施しており、この選書システムの定着と利用者増が期待される。
- (C) 図書館自体の広報活動では、次の事項を試みている。
- ・ 図書館入口フロアの掲示板を新設し、新着図書紹介のカラー表示、各学科別の年間利用グラフ（入館・貸出）、貸出図書上位リスト（一般書・話題書・雑誌）等を貼り出した。
 - ・ 図書館入口のお知らせ掲示板に、JDream、NACSIS-IR、館報、卒研オリエンテーション等の利用案内を常時掲示している。これらはホームページでも紹介している。
 - ・ 半期に一回発行する図書館報の内容を充実し、カラー化など読みやすさを向上させた。
 - ・ 受入図書リストを 1~2 ヶ月きざみでちらし刷りして、教職員に配布している。
 - ・ 図書館入り口近くにテーマ別特集図書の企画・展示コーナーを設けている。

(ハ) 学生閲覧室の座席数

図書館利用環境整備として、利用案内掲示板の増設のほか、書架や館内備品のレイアウト工夫、床面カーペットタイルや剥離壁紙の交換等の内装修復、当館所蔵の絵画展示、植木鉢設置などを行い、利用しやすく、落ち着いて学習できる環境を工夫している。

こういう地道な努力で図書館の魅力を多くの学生・教職員に理解してもらい、入館者の増加につなげることしか、現在は方策が考えつかないのが現状である。将来的には図書館が大学の中心部に位置し、学内のどこからも近く、気軽に立ち寄れる存在になることが最も望ましいと考える。

(ニ) 情報検索設備や視聴覚機器

現状、大きな課題があるとは認識していないが、限られた予算の中で、着実に充実させていきたいと考えている。

(二) 情報インフラ

(1) 学術情報の処理・提供システムの整備状況、国内外の他大学との協力の状況

(現状)

(イ) 学術情報の処理・提供システムの整備状況

平成 14 年 10 月より稼働中の図書館システム (LVZ) を用いて図書館業務全般の処理を行っている。本システムには本学所蔵の学術情報資料の大半が登録されており、図書館ホームページを通じて学内外から検索が可能となっている。図書・雑誌の書誌データの取り込みには国立情報学研究所提供の NACSIS-CAT を利用しており、全国標準のデータが利用可能である。なお本システムは平成 20 年 5 月時点でも、そのまま稼働中であるが平成 21 年 4 月或いは 9 月稼働を目指して新システムへの移行を検討中である。